

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 群馬県（東部農業事務所）
都道府県 群馬県
対象地域 桐生市、みどり市
対象品目 雨よけブドウ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

群馬県東部地域（桐生市、みどり市）では、雨よけブドウ栽培を行っているが、近年の夏場の高温によりハダニ類の被害が顕著になってきている。施設ブドウ栽培への天敵製剤の導入は、施設ブドウ産地で進められており、マニュアル等も作成されているが、雨よけブドウ栽培においては導入が進んでいない状況である。そこで、本事業により、天敵製剤の導入と適切な下草管理による化学農薬の使用量を低減、及び薬剤散布作業削減による省力化を目指し実証を行い、グリーンな栽培体系を実践する産地を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	芽かき	花穂整形	ジベレリン処理	摘粒	袋かけ	収穫			せん定				生育期間中は定期的な除草を実施。
	薬剤散布												
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	芽かき	花穂整形	ジベレリン処理	摘粒	袋かけ	収穫			せん定				
	薬剤散布												
技術名			天敵製剤設置										天敵利用中の除草は必要最小限に抑える。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	6.2	▶ 6.2	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.4	▶ 5.2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵製剤を活用したIPM体系	化学農薬の使用回数の削減 薬剤散布作業削減による省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬（殺ダニ剤）の削減回数（回）	0	▶ 1	殺ダニ剤散布回数を慣行より1回削減する。 （地域の慣行散布回数は4回）

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

引き続き実証ほにて検討を行うことでマニュアルの改訂を行い、より産地の実情に合わせた情報を生産者に提供する。 また、実証ほの結果を講習会等で生産者に伝えることで、天敵製剤への理解を深めていく。
--

関係者の役割

関係者名	東部農業事務所	全農ぐんま	石原バイオサイエンス	JAにったみどり
役割	天敵製剤の推進・指導	天敵製剤の推進・指導	天敵製剤の推進・指導	資材調達 共同調査

その他